

平成26年度 B級審判員 資格取得審査講習会筆記試験問題

【6人制】

1. 次の問題文を読み、() の中に正しい数字や文字を書きなさい。

- (1) コートは(①) m×(②) mの長方形で、最小限(③) mの幅のフリーゾーンで囲まれている。
- (2) すべてのラインは幅(④) cmである。それらは明るい色で、フロアおよび他のラインと異なる色でなければならない。
コートは、2本のサイドラインと2本のエンドラインにより区画される。2本のサイドライン、エンドラインとも、コートの(⑤) 側に引かれる。
- (3) アタックラインは、それぞれのコートに、そのライン幅の後端がセンターラインの幅の中心から(⑥) mとなるように引く。アタックラインによりフロントゾーンを区画する。
- (4) サービスゾーンは、それぞれのエンドラインの後方に位置する(⑦) mの幅を持つゾーンである。サイドラインの延長線上に、エンドラインの後方(⑧) cmに、(⑨) cmの長さで引く2本の短いラインにより両端を区画する。両方の短いラインはフリーゾーンの幅に含まれる。
- (5) FIVB世界・公式大会では、ウォームアップエリアがそれぞれベンチ側のフリーゾーンの外側のコーナーに、約(⑩) m×(⑪) mの広さで設けられる。
- (6) フリープレー空間は、障害物が何もない競技エリアの上方の空間で、競技をする表面から、最小限(⑫) mの高さがなければならない。FIVB世界・公式大会では、最小限(⑬) mの高さが必要である。
- (7) 気温は(⑭) °Cを下回ってはならない。
FIVB世界・公式大会では、最高気温(⑮) °Cを上回ってはならない。また、最低気温は、(⑯) °Cを下回ってはならない。
- (8) ネットはセンターラインの上に垂直に設置し、上端の高さは男子(⑰) m、女子は(⑱) mである。
- (9) ネットの高さは、コートの中央部で測定する。両サイドライン上のネットの高さは、完全に同じで、規定の高さから(⑲) cmを越えてはならない。
- (10) ネットは縦幅(⑳) m、長さ(㉑) ~10m(サイドバンドの外側は両端各25~50cm)で、10cm角の黒い網目で作られている。
- (11) アンテナは長さ(㉒) m、直径(㉓) mmの弾性のある棒で、ファイバーグラスまたは類似の素材で作られている。
アンテナは、両サイドバンドの外側の縁にしっかりと取り付けられる。2本のアンテナは、それぞれ反対のネット面に設置される。
ネットの上(㉔) cmの高さに伸び、この部分には対照的な色で、できれば赤と白で、(㉕) cmごとのストライプをつける。

2. 次の問いに答えなさい。

(1) ボール規格について正しい組み合わせを選び、記号で答えなさい。

※数値はボールの円周・重量・内気圧の順で示している。

ア.	63～65 cm	220～240 g	0.29～0.318 kg/cm ²	
	イ.	66～68 cm	260～270 g	0.30～0.310 kg/cm ²
	ウ.	65～67 cm	260～280 g	0.30～0.325 kg/cm ²

(2) 選手の着用するユニフォームの番号について正しい組み合わせのものを選び、記号で答えなさい。

①ジャージの胸部と背部の番号の高さについて

ア.	胸部	背部
	10 cm	15 cm
	イ.	15 cm
ウ.	20 cm	30 cm

②チームキャプテンは、胸部の番号下に

(ア. 8×2 cm イ. 10×2 cm ウ. 12×3 cm)
のマークをつけなければならない。

3. 次の文章を読んで正しいものは○、間違っているものには×をつけなさい。

- (1) プレー中でない選手は、チームベンチに座っていなければならない。
- (2) プレー中、監督はスコアラーステーブルに最も近い位置でチームベンチに座っていなければならない。
- (3) チームキャプテンがコートをはなれている場合でも、チームキャプテンはアウトオブプレーのときに審判員への発言が許される。
- (4) プレーをしていない選手が、タイムアウトおよびテクニカルタイムアウト中にボールを使わずにウォームアップできるのは、自チーム側のフリーゾーン内である。
- (5) 両チームが事前に試合コートでウォームアップしていたなら、ネットでの試合開始前の公式ウォームアップは、両チーム合わせて6分間行うことができる。そうでない場合は10分間ウォームアップすることができる。
- (6) ボールは、身体のだのの部分に触れてもよい。
- (7) 主審のサービスのホイッスルと同時にその後でも、サーバーがサーブを打つ前であれば試合中断の要求ができる。
- (8) チームの最初のヒットでは、1つの動作中であれば、ボールは身体のさまざまな部分に連続して接触してもよい。
- (9) サーバーは主審がサービスのホイッスルをした後、8秒以内にボールをヒットしなくてはならない。
- (10) シューズのひもがプレー中にほどけてしまったため、ゲームキャプテンでない選手本人が試合を待ってくれるように審判に要求した。

- (11) サーバーのサービスヒットの瞬間に（不適切なサービスの実行やローテーション順の間違いなどで）反則をした場合は、相手チームにポジションの反則があったとしても、サービスの反則となる。
- (12) バックプレーヤーは、フロントゾーンのどこからでも、ネットより低い位置からアタックヒットを完了することができる。
- (13) リベロは、バックゾーンのどこからでもネットよりも完全に高い位置でボールを相手に返球することができる。
- (14) ボールをプレーする動作中に、選手が、アンテナの上部 80cm の部分にふれたがそのまま試合を継続した。
- (15) タイムアウト終了のホイッスルが鳴ったが、選手がベンチ前から移動せずゲーム再開が遅れたため、ゲームキャプテンを呼び、口頭で注意をした。
- (16) 相手チームのサービスしたボールをフロントゾーン内でネットより高い位置でアタックヒットを完了してはならない。
- (17) バックプレーヤーやリベロがブロックの試みをしたが、ボールがバックプレーヤーやリベロに当たらなければ反則ではない。
- (18) 各チームは、1セットにつき2回までのタイムアウトと、6回までの選手交代を要求することができる。
- (19) 選手交代の要求があり、選手交代をした。手続きが完了した後、同じチームがさらに選手交代を要求した
- (20) サーバーがサービスを打った後、ラリーの完了前にリベロと選手が交代をした。

4. 次の文章のア～トの（ ）に正しい語句をそれぞれ書きなさい。

- (1) （ア）と（イ）を除き、ボールを相手へ送る全ての動作は、アタックヒットとみなされる。
- (2) 中断とは、ラリーの完了から主審の次のサービスのホイッスルまでの時間をいう。正規の試合中断は、（ウ）と選手交代だけである。
- (3) コートチェンジは、最終セットで、リードするチームが3セットマッチの場合は13点、5セットマッチの場合は（エ）点に達したとき、直ちに行う。
- (4) 最初の軽度な不法行為は、主審がゲームキャプテンを通じて口頭で警告する。2度目は、当該する選手に（オ）カードを使用して警告する。
- (5) ディレイワーニングとディレイペナルティーは（カ）への罰則である。
- (6) 同じチームによる2回目以降の遅延行為は、どのチームメンバーが引き起こしても、どのような種類のものであっても、ペナルティとなり、ディレイペナルティの罰則が適用される。
そのチームは（キ）点を失い、相手チームのサービスとなる。
- (7) 副審は、それぞれのチームが使用したタイムアウトと選手交代の回数をコントロールし、主審と当該チーム監督に（ク）回目のタイムアウト、および（ケ）回目と（コ）回目の選手交代を通知する。

5. 次の文章は試合中に副審の責務について示す項目が書いてあります。() 内に当てはまる語句をそれぞれ書きなさい。

- ① 相手コートおよびネット (ア) の空間へ侵入したとき。
- ② (イ) チームのポジションの反則のとき。
- ③ 主として (ウ) 側のタッチネットの反則と、選手の副審側のアンテナに触れたとき。
- ④ バックプレーヤーが (エ) の完了をしたときや、リベロがブロックの試みをしたとき。または、バックプレーヤーやリベロの (オ) の反則のとき。
- ⑤ (カ) が外部の物体に触れたとき。
- ⑥ ボールがフロアに触れて、(キ) がその接触を確認できないとき。
- ⑦ 相手コートに向かうボールの全体またはその一部が副審側の許容空間 (ク) 側を通過したとき、あるいは副審側のアンテナにボールが触れたとき。

6. 下の文は、ボールをプレーするときの反則を示したものです。A～Dそれぞれ反則の種類を答えなさい。

- A. チームが返球する前に、ボールを4回ヒットすること。
- B. 選手が競技エリア内でボールをヒットするため、チームメイトまたは構造物・物体から助けを得ること。
- C. ボールをつかむ、または投げる。この場合は、ヒット後、はね返らない。
- D. 1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体の様々な部分に連続して触れること。

【9人制】

問) 次の文章は、9人制のルールを表したものである。文を読んで正しいものには○、間違っているものには×をつけなさい。

- (1) 一般男子のコートの広さは21m×10.5mである。一般女子のコートの広さは18×9mである。
- (2) 一般男子のネットの高さは2.38m、一般女子は2.24mである。
- (3) ウォーム・アップ・エリアは、およそ3m×1.5mの大きさである。
- (4) アンテナは、サイドバンドの外側25cmのところに取り付ける。
- (5) 競技場の表面から最小限12.5mの高さまでの空間には、ネット、支柱、審判台を除き、一切の障害物があってはならない。
- (6) チームは、9人の選手および3人以内の交代選手で構成する。
- (7) 公式ウォームアップの時間は、1チーム3分間とする。ただし、両チームが合同で行うときは6分間とする。
- (8) ネットにあたった場合でも、同一選手が2回触ったらドリブルとなる。
- (9) 最終(第3)セットでは、いずれかのチームが13点を先取したときにコートを交代し、直ちに試合を再開する。
- (10) セット間の中断時間は、3分間とする。
- (11) 有効に登録された選手およびチーム役員は、試合途中であってもベンチに入り試合に参加することができる。
- (12) 第2(第3)セットは、前セットの最後のサーバーの、相手チームの次の順にある選手のサービスで開始する。
- (13) サービスは、主審のサービス許可の吹笛後、5秒以内に行わなければならない。
- (14) 選手交代は、1セットにつき6回、3人を限度として、同じ中断中に、複数回、または連続して要求することができる。
- (15) サービスの反則は、サーブ順を誤ってサービスしたときと、サービスの失敗を2回続けたときである。
- (16) インプレー中、選手がネットを越えて相手コート内にあるボールを触れたときは、オーバーネットの反則である。
- (17) サーバーがトスしたボールを打たなかったため、反則とした。
- (18) ネット下方の空間から相手側のコートに入ってしまったが、誰とも接触していないため、反則とはならなかった。
- (19) 選手交代を 8→10→11→8の順で選手交代をした。
(番号はサービスを打つ順、10、11は選手番号を示す。)
- (20) 両チームの選手が、ネット上で同時にボールをプレーしたときは、その瞬間に吹笛してダブルファウルとして、ラリーをやり直す。